

心を寄せて～難民とともに～

― はじめに～難民選手団の活躍と人道危機の拡大～

2024年夏に開催されたパリ2024オリンピック競技大会には、37人の難民アスリートによる難民選手団が結成され、世界中の人々に勇気を届ける活躍を見せました。特に今大会では、ボクシング女子75kg級のシンディ・シンディ・ヌガンバ選手は、難民選手団結成から初となるメダルを獲得しましたが、難民アスリートすべてが、出場した12競技で素晴らしい決意と勇気を示してくれました。

また、これまでに難民選手団として出場した選手が、帰化したブルガリアの代表として銅メダルを獲得したり、南スーダンのバスケットボール男子代表は、UNHCRのサポーターのウェンエン・ガブリエル選手を含む元難民で構成されており、今大会ではアフリカ大陸を代表して出場し、大活躍を見せました。

また、パラリンピック競技大会においては、テコンドー女子47kg級でアフガニスタン出身のザキア・フダディ選手が銅メダルを獲得、そして陸上400m視覚障害のクラスでは、カメルーン出身のアタンガナ選手が難民選手団の男子選手として初めてとなる銅メダル獲得を喜びました。

これらの快挙はとても素晴らしいことですが、すべての選手、そして難民アスリートを支えるさまざまな立場の方々が輝いたそんなオリンピックとパラリンピックであったのではないのでしょうか。



UNHCRはアフガニスタンで人道支援を必要とする家族が冬を乗り越えるための暖房器具を提供している © UNHCR/Kajsa Waaghals

しかし「平和の祭典」に注目が集まる一方で、世界中で人道危機が拡大しています。

後述するレバノンにおける緊急事態は、連日報道されているところですが、これに加えて、ガザやウクライナの終わらない惨状に心を痛められている方も多いと思います。さらになかなか日本では報道されませんが、ミャンマー、アフガニスタン、シリア、スーダン、イエメン、コンゴ民主共和国、ハイチ、ベネズエラなど、人道危機に苦しむ人々が増え続けており、UNHCRは常に命と人権を守るために支援活動に奮闘しております。これから冬が訪れて寒さが増すことにより、支援現場は過酷さを極めます。今一度、困難に立ち向かう難民や国内避難民の人々に目を向けていただき、あたたかいご支援をご検討いただければ幸いです。

― 第19回難民映画祭

日本において難民への共感と支援の輪を広げていくことを目的として難民映画祭。

19回目となる今年は、**11/7（木）～11/30（土）**に開催いたします。難民となった人たちの、**困難を力強く生き抜く姿に光をあてた珠玉の6作品**（日本初公開の4作品を含む）を公開・配信しますが、オープニング・劇場開催として、**11月7日（木）にTOHOシネマズ 六本木ヒルズ**にて「**ザ・ウォーク～少女アマル、8000キロの旅～**」を上映します。

また、映画祭の開催期間中には、上映作品の背景にある難民問題や社会について学べる**オンラインセミナーを5回開催**します（参加無料/要申込み）。

キャッチフレーズは、「**世界を想う。平和を問う。**」

世界とのつながりを感じながら、平和を想う人が増えるほど、きっと世の中は良い方向に変わっていく...という願いをこめました。ぜひご参加ご検討いただき、多くの方々に広めていただければ幸いです。

*** 上映作品 ***

- ・ザ・ウォーク～少女アマル、8000キロの旅～
- ・永遠の故郷ウクライナを逃れて
- ・ピース・バイ・チョコレート
- ・孤立からつながりへ～ローズマリーの流儀～
- ・学校をつくる、難民の挑戦
- ・ぼくたちは見た-ガザ・サムニ家の子どもたち-

*** 参加方法 ***

- ・公式ウェブサイトからお申込みください。
- ・寄付つき鑑賞、または、無料鑑賞から選択

第19回難民映画祭について詳しくはこちら⇒

第19回

難民映画祭

REFUGEE FILM FESTIVAL

世界を想う。
平和を問う。

オンライン開催

2024.11.7 [木] - 11.30 [土]

劇場開催 (東京)

2024.11.7 [木]

会場: TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

寄付つき鑑賞
または 無料鑑賞



—世界各地の難民支援の現場より

【レバノン】

報道でもご存じのとおり、大規模な軍事攻撃によって、レバノン市民や同国で暮らすシリア難民等、**120万人以上が避難を余儀なくされています**。またレバノン当局によると、9月16～27日だけで、**子ども87人と女性156人を含む1030人が死亡、2023年10月以降、少なくとも2071人が死亡、9745人が負傷しています**。UNHCR職員も2人命を落としました。UNHCRはレバノンで1964年に活動を開始し、レバノンの民間人と難民の双方に援助活動を実施してきました。**レバノンは推定150万人のシリア難民と1万1000人以上の他国からの難民を受け入れています**。面積は岐阜県と同じくら

い、人口が約550万人ほどの国で、この受け入れ規模は例をみません。決して経済や政治の状況が良好とはいえないなかで、助け合いの精神で受け入れていると話した市民の声を、小職は忘れることはできません。今、レバノンの人々も難民も、今回の攻撃によって、想像を絶する苦難に耐え、強制避難のトラウマを抱



イスラエルによる空爆から逃れレバノンからシリアに到着した人々
©Hameed Maarouf

えています。そして、今年9月23日以降、この地域での情勢が著しく悪化してからも、レバノンにて就寝用マット、毛布、ソーラーランプ、調理器具セットを含む22万3000点以上の援助物資を7万3000人に配布する他、人々の命を守るシェルター支援、現金給付支援等、援助活動を拡大しています。さらにシリアでも、今回の壊滅的な攻撃から国境を越えて逃れて来た**25万人以上のレバノン、シリア、その他の国籍の人々受け入れ態勢を整え、国境付近でも保護活動を実施**。

救援物資12万点、食料18万点を配布した他、新たにシリアに1万3000家族を安全な場所へ移送する等、救援活動を拡大



UNHCR職員の指を握る子ども ©UNHCR/Hameed Maarouf



レバノンから逃れた一家の話を聞くUNHCR職員
©UNHCR/Ola Kabalan

大していますが、シェルター医療ケア等を必要としている家族に、さらなる援助が急務です。ですが、対応するための資金が足りていません。ぜひ皆様方のあたたかいお力添えをお願い申し上げます。

【リビア】

2023年9月、北アフリカのリビア北東部で強力な暴風雨「ダニエル」によって大規模な洪水が発生。記録的な大雨、そして毎時70～80キロメートルの強風に襲われ、近隣地域は壊滅的な被害に遭い、**死者は4000人以上、4万4000人以上が避難を強いられました**。被災地では今も多くの人々が人道支援を必要としている中、2024年8月には新たな洪水がリビア北西部ガートを襲い、**5800人が被災しました**。また、南東部クフラでも洪水が発生し、**3000人が被災しています**。気候変動による自然災害は、常に情勢不安にさらされ暴力行為や衝突が絶えないリビアの人々を窮地に追い込んでいます。**現地の人々のみならず、リビアに避難する何万人もの難民、国内避難民が危機にさらされています**。UNHCRは山積する課題に対応すべく活動を拡充しています。ぜひ皆様方のお力添えをお願い申し上げます。



強力な暴風雨「ダニエル」によって崩壊した建物
©UNHCR/Ahmed Al Houdiri

— ご協力のお願いと窓口について

伝統仏教界の皆様方には、長きにわたりご協力をいただいておりますが、人道危機が拡大しているなかで、ぜひ今一度、難民支援の御力添えをいただければ幸いです。皆様方の御力は、世界各地の難民支援の現場で、緊急的に命を守る支援だけではなく、避難した先で人権を守り、教育や就労などを支え、未来を守る大きな力になります。皆様方のさらなる御力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。ご不明な点やご要望など、ぜひいつでも担当までお問い合わせくださいませ。

最新情報を「心を寄せて」特設Webページに随時掲載しておりますので、ぜひご覧くださいませ。⇒⇒⇒



【お問い合わせ先】

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会 広報・啓発事業担当：天沼 耕平

TEL：03-3499-2451 Mobile：070-3869-1763

E-Mail：amanuma@japanforunhcr.org